

LEVEL  
**2**

Web  
Tadoku  
Books

# かがみ 鏡のない村

むら





朗読音声のダウンロード  
Audio download

## よ　まえ ★読む前に Before you read

### 《多読の読み方》

多読とは、とてもやさしい本から楽しくたくさん読んで日本語を身につけていく方法です。

次の4つのルールを守って楽しく読みましょう。

1. やさしいレベルから読む
2. 辞書を引かないで読む
3. わからないところは、とばして読む
4. 進まなくなったら、他の本を読む



### 《How to do Tadoku》

Tadoku recommends that everyone should start with very easy books and enjoy a lot of them following the 'Four Golden Rules' below.

1. Start from scratch.
2. Don't use a dictionary.
3. Skip over difficult words, phrases and passages.
4. When the going gets tough, quit the book and pick up another.



これは、むかしむかしのお話です。

越後（今の新潟県）のある村に  
正助という男が住んでいました。  
正助はお父さんと暮らして  
いました。



ある日、お父さんとうが病氣びょうきになりました。  
正助しょうすけは、一生懸命いっしょうけんめいお父とうさんの世話をせわ  
しました。でも、お父とうさんは死んで  
しまいました。



正助は毎日、墓参りをしました。

水や食べ物を持つてお父さんのお墓に  
行くのです。結婚してからも毎日行きました。

村の人たちは、

「正助は本当にrippaban男だ」と  
と言いました。



ある日、殿様がその話を聞いて、正助を

お城に呼びました。

「正助か」

「はい」

「お父さんが死んでから十八年間、

毎日墓参りをしていると聞いたぞ」

「はい」

「いい息子だな。りっぱだ」

「いいえ、私は父さんの墓参りを

しているだけですから」

「正助

「はい」



殿様

どのさま

「いや、だれにもできることではない。

正助、おまえはりつぱだ。

きれいな着物をやるぞ」

正助

しょうすけ

「着物はあります」

殿様

とのさま

「じゃあ、広い畑をやるぞ」

正助

しょうすけ

「じゃあ、広い畠をやるぞ」

「じゃあ、金をやるぞ」

殿様

とのさま

「じゃあ、金をやるぞ」

「金はありません。でも、

金はないほうがいいです。

たくさん金があると働きませんから」



殿様

「じゃあ、何もほしくないのか」

正助

「ほしいものはありません。でも、

お願ねがいがあります」

殿様

「何だ。言いなさい」

正助

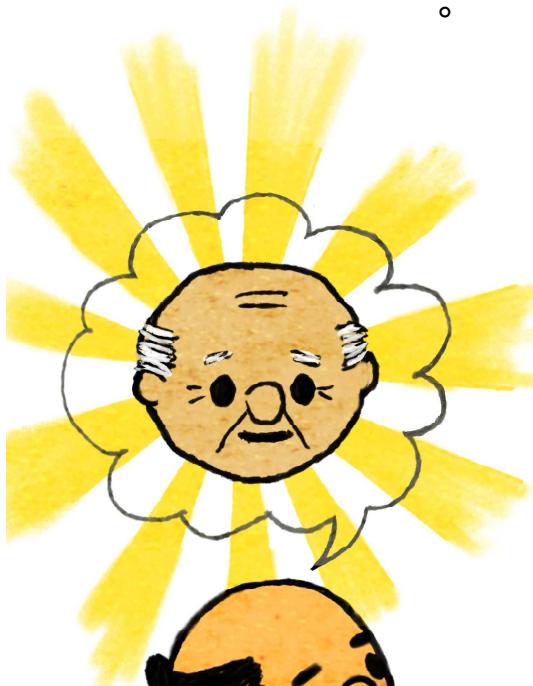
「死んだ父さんに会いたいです」

殿様

「え？」

殿様

「え？」



「殿様は、小さな声で家来に聞きました。」

「正助は父親に似ていますか？」

「じゃあ、あの鏡の入った箱を持つてこい」



「家来は、鏡の入った箱を持つてきました。」

「正助、この箱の中を見なさい」

「正助は箱の中を見ました。」



正助

「父さん！ここにいたのか！」

正助

「この村の人たちは、まだだれも鏡を見たことがないのです。正助は鏡の中のお父さんの顔を見て、

泣きました。

正助

「あー、父さん、泣かないでください。

でも、父さん、若くなつたなあ」

殿様

「その箱を大切にしなさい。しかし、だれにも

見せてはいけないよ」



正助は、鏡をもらつて、喜んで家に  
帰りました。そして、鏡の箱を納屋に  
持つていきました。それから、毎朝、毎晩、  
納屋に行きました。

奥さんのおみつは心配しました。  
— 正助さんは、毎朝、毎晩、納屋に  
行くけれど、どうしてだろう？ —



ある日、おみつは正助しょうすけが畠はたけに行いった後あと、  
納屋なやに入はいりました。すると、おみつの  
知らない箱はこがあります。おみつが箱はこを開あけると……  
「あっ、女おんなだ！ 女おんながいる！」

おみつは、びっくりしました。

鏡かがみの中なかの女おんなもびっくりしました。

「あんたはだれ？ どこから來きたんだ？」

おみつも鏡かがみを見みたことがないのです。



正助が帰つてきました。

「おい、おみつ、今帰つたよ」

正助

おみつ

正助

「おなかがすいた、ごはんはまだか?」

おみつ

「……」

正助

「おみつ、どうしたんだ? 病気か?」

おみつ

「納屋の中の女はだれですか?」

正助

「納屋の中の女? え? ああ、

あの箱の中を見たんだな。

あれは父さんだよ

おみつ

「父さん? いいえ、女です……。」

あの女はだれですか



おみつが正助を叩きました。

正助 「あ、痛い！」

おみつ 「ばか、ばか！」  
「痛い、痛い、痛い！」

隣の寺の尼さん（女の坊さん）が  
ふたり二人の声を聞いて、正助の家に来ました。

尼 「正助、どうしましたか？ おみつ、

泣かないで

おみつ 「納屋の中に…」

尼 「おみつ 「納屋の中に？」

おみつ 「納屋の中に女がいるんです」



尼 「えー？ 女が？」

正助 「あれは、父さんです。女じゃありません」

おみつ 「いいえ、女です！ 箱の中に女がいるんです」

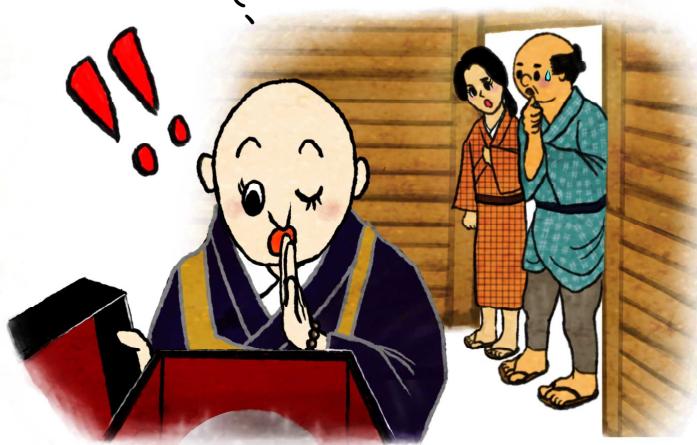
正助 「いや、父さんだ。女じゃない！」

「じゃあ、私が納屋に見に行きま

しょう」

尼さんは、納屋に入つていきました。そして、  
箱を開けました。尼さんも鏡を見たことが  
ありません。

尼 「あー、女だ。女がいる。でも…」



尼さんあまは納屋なやから出できました。

尼あま「正助しょうすけ、おみつ、喧嘩けんかは終おわり！」

箱はこの中なかには、女おんながいます。でも、  
だいじょうぶおも。女おんなは悪わるいことを  
したと思おもったのでしよう。

もう尼さんになつていましたよ」



かがみ むら  
**鏡のない村**

発行日：2026年1月31日

再話/監修：NPO多言語多読

挿絵：池田あきつ



TADOKU  
Supporters

NPO多言語多読  
tadoku.org



この作品はクリエイティブ・コモンズ表示-非営利-改変禁止4.0国際ライセンスの下に提供されています。

This book is licensed under CC BY-NC-ND 4.0

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/>